

## ジャパンパック 花卉輸送用の包装進出 注水可能な段ボール生産

機能性段ボール製造のジャパンパック（富山県滑川市、長田宏泰社長）は花卉（かき）輸送の分野に進出する。十月をめぐりに、水を入れたまま運べる花卉包装用の段ボールの本格生産を始める。花自体が出し、鮮度劣化を招くエチレンガスも吸収できる。生産農家や卸売市場向けに売り込み、2-3年後には年間十萬ケースの販売を目指す。

花卉を輸送するには花の束を横にする場合が一般的だが、この方法だと鮮度の低下速度が速く、形も崩れやすくなる。

ジャパンパックの段ボール包装は箱の下部に防水加工を施しており、水を直接入れることができる点が特徴。茎を水を浸しているため鮮度を保持しながら保管・輸送できるほか、花束を縦にしたまま運べることから形状も保てる。防水加工材にはでんぷんなどを成分とする素材を使用し、環境にも配慮した。

茎を浸す水は高さ3-5センチ。段ボール箱内部には長さ8センチ程度の「つば」を付け「輸送中に箱が倒れても水がこぼれない構造」（長田社長）にした。

さらに、花が自ら出すエチレンガスを取り除く工夫も施した。エチレンガスは花の成熟を早め枯れやすくなる。このため、エチレンガスを吸着する多孔質のゼオライトを段ボールに表面処理し、鮮度を保てるようにした。

ジャパンパックは塗料や接着剤、しょう油などを入れる段ボール製の容器を月間6万-7万ケース生産している。鮮度を保つうえで水が重要な花卉分野で拡販を図る。価格は1ケース三百円前後とし、五年後に同分野で売上高一億円を目指す。

機能性段ボール製造のジャパンパック（富山県滑川市、長田宏泰社長）は花卉（かき）輸送の分野に進出する。十月をめぐりに、水を入れたまま運べる花卉包装用の段ボールの本格生産を始める。花自体が出し、鮮度劣化を招くエチレンガスも吸収できる。生産農家や卸売市場向けに売り込み、2-3年後には年間十萬ケースの販売を目指す。

**注水可能な段ボール生産**

**花卉輸送用の包装進出**

ジャパンパックの段ボール包装は箱の下部に防水加工を施しており、水を直接入れることができる点が特徴。茎を水を浸しているため鮮度を保持しながら保管・輸送できるほか、花束を縦にしたまま運べることから形状も保てる。防水加工材にはでんぷんなどを成分とする素材を使用し、環境にも配慮した。

さらに、花が自ら出すエチレンガスを取り除く工夫も施した。エチレンガスは花の成熟を早め枯れやすくなる。このため、エチレンガスを吸着する多孔質のゼオライトを段ボールに表面処理し、鮮度を保てるようにした。

ジャパンパックは塗料や接着剤、しょう油などを入れる段ボール製の容器を月間6万-7万ケース生産している。鮮度を保つうえで水が重要な花卉分野で拡販を図る。価格は1ケース三百円前後とし、五年後に同分野で売上高一億円を目指す。



花卉の包装・輸送用防水段ボール

れども水がこぼれない構造（長田社長）にした。さらに、花が自ら出すエチレンガスを取り除く工夫も施した。エチレンガスは花の成熟を早め枯れやすくなる。このため、エチレンガスを吸着する多孔質のゼオライトを段ボールに表面処理し、鮮度を保てるようにした。

ジャパンパックは塗料や接着剤、しょう油などを入れる段ボール製の容器を月間6万-7万ケース生産している。鮮度を保つうえで水が重要な花卉分野で拡販を図る。価格は1ケース三百円前後とし、五年後に同分野で売上高一億円を目指す。

さらに、花が自ら出すエチレンガスを取り除く工夫も施した。エチレンガスは花の成熟を早め枯れやすくなる。このため、エチレンガスを吸着する多孔質のゼオライトを段ボールに表面処理し、鮮度を保てるようにした。

ジャパンパックの段ボール包装は箱の下部に防水加工を施しており、水を直接入れることができる点が特徴。茎を水を浸しているため鮮度を保持しながら保管・輸送できるほか、花束を縦にしたまま運べることから形状も保てる。防水加工材にはでんぷんなどを成分とする素材を使用し、環境にも配慮した。

機能性段ボール製造のジャパンパック（富山県滑川市、長田宏泰社長）は花卉（かき）輸送の分野に進出する。十月をめぐりに、水を入れたまま運べる花卉包装用の段ボールの本格生産を始める。花自体が出し、鮮度劣化を招くエチレンガスも吸収できる。生産農家や卸売市場向けに売り込み、2-3年後には年間十萬ケースの販売を目指す。